

外国につながる子どもたちのための わたしたちの横浜



ねん ど にんていとくてい ひ えい り かつどうほうじん ち きゅうがっこう ち きゅう こ きょうしつ か か
2013年度 認定特定非営利活動法人 地球学校 「地球っ子教室」書き換え

横浜市立小学校用副読本

わたしたちの横浜

社会科・理科・『横浜の時間』副読本

より 書き換え

2012 年度作成 「ペリー艦隊がやってきた!」～「もののはじめは横浜から」

2013 年度作成 「海と丘をかけめぐった縄文人」～「東海道三宿マップ」

もく じ 目 次

うみ おか じょうもんじん ページ
海と丘をかけめぐった縄文人 **6ページ**

- ・ タイムカプセルをあける
- ・ 丘に住む

こめ てつ て や よいじん ページ
米と鉄を手にした弥生人 **10ページ**

- ・ 溝で囲まれたムラに住む
- ・ 水田はどこにあったのだろう
- ・ 壺で種モミを保存・お米は倉へ
- ・ 鉄で作った武器・農具

かがみ かぶと う こ ふん じ だいじん ページ
鏡や兜をもらい受けた古墳時代人 **14ページ**

- ・ かがみ（鏡）
- ・ 兜と鎧
- ・ はにわ（埴輪）
- ・ 玉

な ら みやこ よこはま ページ
奈良の都と横浜をつなぐもの **16ページ**

- ・ 「都」の文字が書いてある土器
- ・ 万葉集の防人の歌
- ・ 横浜にも仏教が広まってきた（弘明寺 奈良時代の瓦）

りく みち うみ みち
陸の道と海の道 ページ
18ページ

りく みち
・ 陸の道

うみ みち
・ 海の道

よこはま むかし うみ よし だ しんでん
横浜は昔、海だった!? 吉田新田 ページ
22ページ

やく ねんまえ よこはま
・ 約400年前の横浜

やく ねんまえ よこはま
・ 約350年前の横浜

ねんまえ よこはま
・ 120年前の横浜

げんざい よこはま
・ 現在の横浜

とうかいどうさんしゆくま っ ぶ
東海道三宿マップ ページ
26ページ

かいこう いま か な がわしゆく
・ 開港のおもかげが今ものこる 神奈川 宿

え ど じ だ い た い む す り っ ぶ ほ ど が や し ゆ く
・ 江戸時代にタイムスリップ?! 保土ヶ谷 宿

や じ き た と と つかしゆく
・ 弥次さん・喜多さんも泊まったよ 戸塚 宿

あとがき ページ
47ページ

うみ おか 海と丘を かけめぐった じょうもんじん 縄文人



横浜市三殿台考古館（撮影：地球っ子教室）

じんるい な う ま ん ゴ う た い り く に ほ ん れ っ と う
人類はナウマンゾウをおって、大陸から日本列島にきました。それからおよそ
まんねん ち き ゅ う お ん だ ん か ま ん ね ん ま え ひ ゃ う
3万年たったころ、地球は温暖化してきました。今からおよそ1万年前に、氷
が こ お り と う み ひ ろ き お ん あ どうぶつ
河の氷が溶けはじめました。そして海が広がりました。気温が上がると、動物
しょくぶつ ふ じ だ い じ ょ う も ん じ だ い じ ょ う も ん じ だ い い せ き よ こ は ま
や植物が増えます。この時代を縄文時代といいます。縄文時代の遺跡が横浜
にはたくさんあります。ひとびと く
人々は、どのような暮らしをしていたでしょうか。

た い む か ぶ せ る タイムカプセルをあける



磯子区三殿台遺跡北側貝塚の貝層（剥ぎ取り標本）横浜市三殿台考古館展示
（撮影：地球っ子教室）

じ ょ う も ん じ だ い も じ
縄文時代には文字がありませんでした。この
じ だ い く い せ き う み だ い ち
時代の暮らしは、遺跡でわかります。海は台地の
した や ま う み た も の
下までありました。それで、山や海の食べ物がた
く さん と れ ま し た よ こ は ま う み ち か か い づ か
くさんとれました。横浜は海に近いので、貝塚が
た く さん あ り ま す か い づ か か い さ な どうぶつ
たくさんあります。貝塚から、貝がら、魚・動物
ほね た も の の こ み せいかつ
の骨などの食べ物の残りが見つかりました。生活
どうぐ まいそう ひと はっけん
の道具や、埋葬された人が発見されることもあり
ます。かいづか
貝塚からいろいろなことがわかるので、
た い む か ぶ せ る
タイムカプセルといわれます。

おか す 丘に住む

じょうぶん じ だい まえ ひとびと た もの
縄文時代より前、人々は食べ物をさがし
て、そうげん い どう じょうもんじん おか
草原を移動しました。縄文人は、丘に
むらをつくって住みました。いえ はしら じ めん
ムラをつくって住みました。家の柱は、地面
ほ を掘ってたてました。や ね か や
を掘ってたてました。屋根はカヤなどにつく
りました。いえ なか ひ ば しょ ろ
りしました。家の中には、火をたく場所（炉）
もありました。これをたてあな じゅうきょ
堅穴住居といいます。



発掘された当時の三殿台遺跡
(横浜市三殿台考古館蔵)

うみ さかな はま かい 海で魚をとり、浜で貝をひろう



獣の骨や角のできたモリとヤス
(横浜市歴史博物館蔵)

し か つの さかな どうぐ つく
シカの角などで魚をとる道具を作りました。
まる き ぶね うみ さかな
た。丸木舟にのって、海で魚をとりました。
こ はま かい
子どもたちは浜で貝をとりました。

もり か はやし ど ん ぐ り 森で狩りをし、林でドングリをひろう



石製のやじり
都筑区花見山遺跡（横浜市歴史博物館蔵）

き おん あ やま い の し し し か
気温が上がると、山にイノシシやシカがす
みました。どうぶつ づみ や
動物をつかまえるために、弓矢が
はつ めい じ だい し ゅ しょ く
発明されました。この時代の主食は
ど ん ぐ り しょくぶつ あき
ドングリなどの植物です。秋にたくさんひ
ろいました。そしてこな ほ ぞん
ろいしました。そして粉にして保存しました。

どき に た 土器で、煮て食べる



縄文式土器（横浜市歴史博物館蔵）

どき なべ でした。た もの ひ
土器はおナベでした。食べ物を火で
ゆっくり に 煮ました。かたいものがやわ
らかくなりました。そしておいしくな
りました。どき には、すばらしい もよう
の模様があります。

ごみはまとめる



家の跡につくられた貝塚 都筑区西ノ谷貝塚
(埋蔵文化財センター蔵)

つか いえ あつ
ごみは、使わなくなった家を集めま
した。ごみは、こわれた どき せっき
た もの か す などでした。もう いちど
とにもどってほしいと おも ったから、あつ
めたのでしょう。

ししゃ 死者をとむらう



埋葬されていた人骨 都筑区北川貝塚
(埋蔵文化財センター蔵)

ししゃ む ら ちゅうしん まいそう
死者は、ムラの 中心に、埋葬しま
した。つか どうぐ
に 入れました。

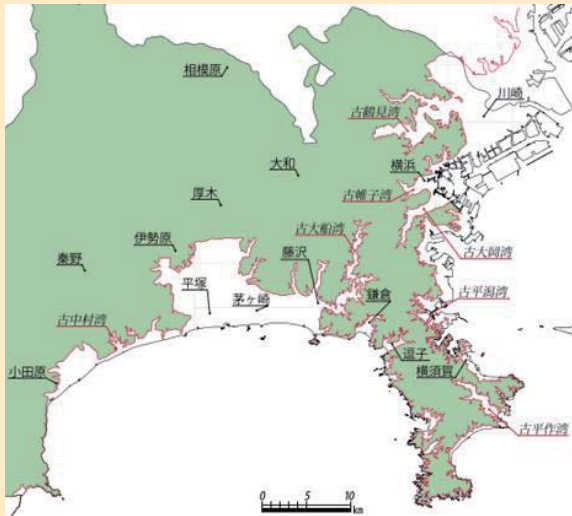
まじない



ペンダント（横浜市歴史博物館蔵）

ひとびと ひょうき
人々は、病氣やけがをしないように、
いのりしました。動物の歯^{どうぶつ}に穴^はをあけて
ペンダント^{べんだんと}をつくりました。それを体^{からだ}に
つけました。魔^まよけにしたのでしょう。

じょうもん じ だい うみ
●縄文時代はここまで海だった



6000 年前の神奈川の大

赤い線が約 6000 年前の海岸線

黒い線が現在の海岸線

(神奈川県立生命の星・地球博物館蔵)

ち きゅう おんだん か やく まんねんまえ
地球の温暖化は、約1万年前に

はじ いま ねん
始まりました。今から6000年

まえ びーく き おん
前がピークでした。気温が2～3

ど たか ひょう が こおり
度高くなって、氷河の氷がとけ

ました。かいすいめん げんざい
海水面は現在より2～3

たか かいすい りくち おく
m高くなって、海水が陸地の奥ま

ではいり かんとうち ほう ぐん まけん
で入りました。関東地方は、群馬県

ふじおか し うみ よこはま し
藤岡市まで海でした。横浜では、市

えい ち かてつ せん た ー きたえきちか
営地下鉄のセンター北駅近くまで

うみ いりえ しゅ
海でした。入江には、いろいろな種

るい かい かい おか うえ
類の貝がいました。貝は、丘の上に

す じょうもんじん だい じ た もの
住む縄文人の大事な食べ物でし

た。た あと むら なか おか
た。食べた後、ムラの中や丘のへ

りにかいづか つく
りに貝塚を作りました。

こめ てつ 米と鉄を て 手にした や よいじん 弥生人



発掘された都筑区大塚遺跡（埋蔵文化財センター蔵）

ち きゅう き こう や よい じ だい は じ こ ろ げん ざい お な
地 球 の 気 候 は、 弥 生 時 代 が 始 ま る 頃、 現 在 と 同 じ よ う に な り ま し た。 た く
さ ん の 人 々 が 大 陸 か ら 海 を わ た っ て 来 ま し た。 そ の 人 々 は、 水 田 を 作 る 技 術、
む ら ま ち て つ つ く ぶ き も あ た ら ぶ ん か
ム ラ を 守 る し く み、 鉄 で 作 っ た 武 器 な ど を 持 っ て き ま し た。 こ の 新 し い 文 化
は、 お よ そ 2 0 0 0 年 前 に、 横 浜 に 伝 わ り ま し た。

み ぞ か こ む ら す 溝で囲まれたムラに住む



ムラを守るための深い
溝（環濠）

（撮影：地球っ子教室）

つ づ き く お お つ か い せ き す ひ と び と
都 筑 区 に 大 塚 遺 跡 が あ り ま す。 そ こ に 住 ん で い た 人 々 は、
む ら ま わ み ぞ ほ が い て き む ら ま ち
ム ラ の 周 り に 溝 を 掘 り ま し た。 外 敵 か ら ム ラ を 守 る た め で
す。 溝 は、 幅 4 m、 深 さ 1. 5 ～ 2 m、 長 さ 6 0 0 m で し た。
む ら と う ざ い な ん ぼ く む ら た て あ な
ム ラ は 東 西 2 0 0 m、 南 北 1 3 0 m で し た。 ム ラ か ら 竪 穴
じゅう きょ あ と け ん た か ゆ か し き そ う こ あ と け ん は っ け ん
住 居 の 跡 が お よ そ 9 0 軒、 高 床 式 倉 庫 の 跡 が 1 0 軒 発 見 さ
れ ま し た。 1 0 0 人 以 上 の 人 々 が 住 ん で い た よ う で す。 こ
む ら か た ち か ん ご う し ゅ う ら く い な さ く い っ し ょ た い り く
の ム ラ の 形 を、 環 濠 集 落 と い い ま す。 稲 作 と 一 緒 に 大 陸 か
ら 伝 わ り ま し た。

すいでん

水田はどこにあったのだろう



炭となった状態で見つかった米
(埋蔵文化財センター蔵)



インディカ米



ジャポニカ米

(撮影:地球っ子教室)

こめ おおつか い せき はっけん
お米が、大塚遺跡から発見されました。

こめ や すみ こめ
お米は、焼けて炭になっていました。米の

しゅるい まる じ ゃ ぼ に か しゅ ちゅうごく
種類は、丸いジャポニカ種です。中国か

ちようせんはんとどう どお きゅうしゅう つた
ら 朝鮮半島を通して九州に伝わった

おおつか い せき すいでん はっけん
のでしょう。大塚遺跡で、まだ水田は発見

されていません。でも、ちか はやぶちがわ
近くの早渕川の

たに いなさく
そばや谷で、稲作をしていたのでしょう。

つぼ たね も み ほ ぞん こめ くら 壺で種モミを保存・お米は倉へ



復元された高床式倉庫
都筑区大塚遺跡
(撮影:地球っ子教室)

やよいじだい つぼ かたち ど き つく
弥生時代から、「壺」の形の土器を作りました。

こくもつ えきたい い くち おお
穀物や液体を入れたのでしょう。「かめ」は、口が大

あ に た
きく開いています。煮たり炊いたりしたのでしょ

う。「はち」はた もの
食べ物のをせたのでしょう。ムラに



たかゆかしきそう こ
は、高床式倉庫もありまし

こめ ほ ぞん
た。お米を保存するためで
す。

弥生土器 都筑区折本西原遺跡(横浜市歴史博物館蔵)

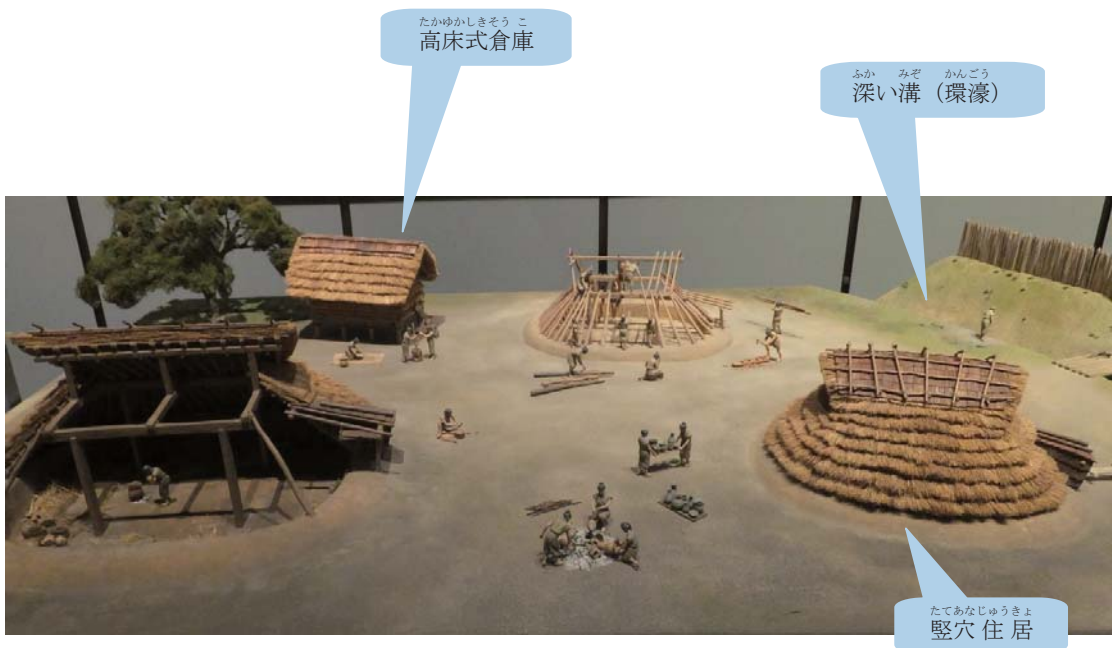
てつ つく ぶ き のうぐ 鉄で作った武器・農具



鉄のやじり

青葉区朝光寺原遺跡
(横浜市歴史博物館蔵)

や よい じ だい きんぞくせいひん たいりく つた
弥生時代には、金属製品が大陸から伝わり
ました。そして、ひとびと きんぞくせいひん つか はじ
ました。この写真は、しゃしん てつせい てつ
鉄製のやじりです。鉄
でつく のうぐ か ま く わ つか
で作った農具(「カマ」や「クワ」など)も使
われました。この頃の横浜では、てつ き ちやうひん
鉄は貴重品
でした。てつせいひん み
鉄製品はほとんど見つかっていませ
ん。



ムラの中の暮らし模型 横浜市歴史博物館展示品 (撮影:地球っ子教室)

はか む ら そと
●お墓はムラの外



都筑区権田原遺跡 方形周溝墓群
(埋蔵文化財センター蔵)

や よ い じ だい はか おおつか い せき
弥生時代のお墓が、大塚遺跡から

80mはなれたところで発見され

ました。このお墓は、方形周溝墓

で、25ありました。墓の形は正方

形で、周りに一辺10mの溝があり

ました。中央に穴があります。そ

こに棺を入れました。溝の中から

出土した土器は、大塚遺跡と同じ

時代のものでした。このお墓は、大

塚遺跡の人々のお墓です。大塚遺跡

からお墓まで続く道も発見されま

した。大塚遺跡は、村全体が完全な

形で発見されて、お墓も見つかり

ました。だから貴重な遺跡で、国の

史跡に指定されています。

ひだりうえ しゃしん つづき ぐんだっぱらい
【左上の写真は、都筑区権田原遺

跡です】

かがみ かぶと
鏡 や 兜 を
もらい 受けた
こ ぶん じ だいじん
古墳時代人



青葉区稲荷前古墳 (撮影:地球っ子教室)

卑弥呼は弥生時代の女王です。卑弥呼は、中国の王から銅の鏡を100枚もらいました。そのことは、中国の「魏志倭人伝」に書かれています。この鏡はどんな意味があったのでしょうか。古墳時代にも、鏡は各地方の王に配られました。そのころ、日本の中心はヤマトでした。横浜もヤマトと強くつながっていたでしょう。横浜でも古墳から鏡、兜、鎧、剣、玉などが見つかりました。古墳にカシラを埋葬しました。やがて、古墳の周りに、埴輪を並べるようになりました。埴輪は、人や馬などの形をしています。

かがみ (鏡)



同范のだ龍鏡（複製）港北区日吉矢上古墳
（横浜市歴史博物館蔵）

この時代の人々は、鏡は不思議な
力を持つと考えました。鏡は、姿
をうつすからです。銅で作った鏡は
貴重品でした。日本各地の有力者に
配られました。

かぶと よろい
兜 と 鎧



すかしの入った兜と鎧

青葉区朝光寺原古墳（横浜市歴史博物館蔵）

あおばく ちょうこうじはら こふんぐん
青葉区に朝光寺原古墳群があります。
そのこふん から、てつ ぶき けん かたな
（さき へら など）、かぶと よろい はっけん
（かたな など）が、ちゅう
おう おおきみ
中央の大王とつながりがある有力者だ
ったのでしょうか。2

はにわ（埴輪）



戸塚区富士山古墳（横浜市歴史博物館蔵）

こふん
古墳のまわりにははにわ なら
はにわ どうぶつ ひと かたち
た。埴輪は動物や人などの形をして
います。こふん まいそう ひと
古墳に埋葬された人のことを
し
知ることができます。

ぎょく
玉



港北区矢上古墳（慶應義塾大学蔵）

たま
まが玉は、かたくて うつく 美しい石を
みて、たま ほんなが
がつてつくりました。くだ玉は、細長
い筒のようなかたち けい
です。これらは有力
者（しや）のしるしだったのでしょ。う。

な ら みやこ 奈良の都と よこはま 横浜を つなぐもの



都筑郡衙想定復元模型（横浜市歴史博物館蔵）

あおばく ちょうじゃはらい せき
青葉区の長者原遺跡から、すずりや土器が発見されました。土器には、墨で
みやこ か いね ほぞん くら み いね なら じだい
「都」と書いてありました。稲を保存した倉も見つかりました。稲は奈良時代
ぜい の税でした。それで、奈良時代の役所の跡だとわかりました。当時、ここに、
みやこ い みち か な がわけん たちばな かわさきし やくしよ あと
都に行く道がありました。神奈川県では、橘樹（川崎市）などでも役所の跡が
み さがみこくぶんじ えび なし おお てら ぜい
見つかりました。相模国分寺（海老名市）という大きな寺もありました。税を
おさ おに く よこはま ぜい おさ だいじ
納めることは国のきまりでした。横浜でも税を納めていたのでしょう。大事な
ことは、ぶんしよ つた
ことは、文書で伝えるようになりました。

みやこ もじ か どき 「都」の文字が書いてある土器



長者原遺跡から見つかった墨書土器
（日本窯業史研究所）

どうじ せいじ ちゅうしん やくしよ
当時の政治の中心は、役所でした。その
やくしよ あと どき しゅつど
役所の跡から、この土器が出土しました。
みやこ い みち えき えき
都に行く道には駅がありました。駅には、
うま ようい ひと しなもの
いつも馬を用意していました。人や品物が
い き
行ったり来たりしました。

まんようしゅう さきもり うた
万葉集の防人の歌

さきもり はとりべのうえだ むさしのくに
防人の服部於田は武蔵国の
つづきのこほり す
都筑郡に住んでいました。そ
して家族を残して遠いところへ
い 行きました。服部於田がつくっ
うた まんようしゅう
た歌が万葉集にあります。

つづきぐんかみつよほろはとりべのうえだ
都筑郡上丁服部於田

い いきつ あしがら
わが行きの 息衝くしかば足柄の

みねほ くち み しの
峰延ほ雲と 見とと俣はね

たび なげ あしがら やま
わたしの旅を嘆くときは、足柄の山に
くち み しの
はう雲を見ながら、わたしを俣んでおくれ

よこはま ぶっきょう ひろ ぐみょうじ なら じだい かわら
横浜にも仏教が広まってきた（弘明寺 奈良時代の瓦）



南区弘明寺本堂（撮影：地球っ子教室）

ぐみょうじ ようろう ねん つく
弘明寺は721（養老5）年に造ら

よこはま し いちばんふる てら
れました。横浜で一番古い寺です。

な ら じ だ い か わ ら し ゅ つ ど よ こ は ま
奈良時代の瓦も出土しました。横浜

ぶ っ き ょ う つ た ひ ろ
にも仏教が伝わり、広がりました。

りく みち 陸の道と うみ みち 海の道

ちゅうせい ぶ し あたら ちから
中世は、武士が新しく力をもつようになりました。

たたか かまくら ちゅうしん
そして戦いをくりかえしました。鎌倉を中心にまちが

りく みち うみ みち かまくら かくち
つくられました。「陸の道」と「海の道」は鎌倉と各地を

じゅうよう みち
つないでいました。それらは、重要な道でした。

りく みち 陸の道

みなもとのよりとも かまくら ばく ふ ひら
源 頼朝が鎌倉に幕府を開きま

した。武士が政治を行 うようにな

りました。この頃、鎌倉へ行く道が

あたら ととの みち
新しく整えられました。この道

は、「鎌倉道」とよばれました。そ

して、この時代の鎌倉は、政治・経

済・文化の中心地でした。この道

は武士だけではなく、多くの人

が通りました。また、鎌倉へ各地の産

物を運ぶ、大事な道でした。



朝夷奈の切り通し（横浜市歴史博物館蔵）

かみ みち なか みち しも みち
 上の道・中の道・下の道という
 ほん おお みち かまくら つづ
 3本の大きな道が、鎌倉に続いて
 いました。この道には 宿 駅があり
 ました。宿 駅は人や馬が休むところ
 でした。かまくら じ だい お
 鎌倉時代の終わりには、
 しも みち つる み しゅくえき
 下の道にある鶴見にも、宿 駅がで
 きました。道の 両 側には多くの家
 があり、にぎわっていました。



いま かくち のこ
 今も各地に残る
 かまくらみち
 「鎌倉道」だった
 しめ せき ひ
 ことを示す石碑

南区弘明寺付近（撮影：地球っ子教室）

うみ みち 海の道

鎌倉に幕府ができたので、物資を運ぶために港が必要になりました。しかし、鎌倉の海は、港（湊）をつくるのにはあいせんでした。それで、鎌倉の東にある六浦に港をつくりました。六浦湊は海岸線が複雑なので、外海の波が来ませんでした。六浦は鎌倉にとって大切な港でした。

この部分の干潟と下の六浦湊は、現在埋め立てられて住宅地となっています。



六浦地形復元模型（横浜市歴史博物館蔵）

上行寺にある
「船つなぎの松」



「門前一带は往古海浜なり」と書いてあります。昔は、この近くまで海でした。

（撮影：地球っ子教室）

この地域は「おつら」とよばれました。鎌倉に幕府が開かれると、さまざまな物資が港に集まり、にぎわいました。その物資は、鎌倉の武士・僧・農民たちの生活を支えました。他の地域から、商人や職人なども多く集まりました。それで、さまざまな産業が発達しました。鎌倉と同じように仏教文化も栄えました。その中心は、近くの称名寺などでした。

かなざわほうじょうし おつらみなと りよう
金沢北条氏は六浦湊などを利用して、

こくない ちゅうごく ほうえき
国内や中国とも貿易をしていました。

きんぎん かたな ゆしゅつ
ここから金銀や刀などを輸出しました。

ちゅうごく たいりょう かね ぶっでん しょもつ
中国からは、大量のお金・仏典・書物・

とうじき ゆにゅう
陶磁器などを輸入しました。



青磁のつぼ（横浜市歴史博物館蔵）

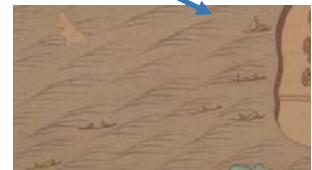
よこはま むかし
横浜は 昔、
うみ
海だった!?
よしだ しんでん
吉田新田

かんないえき あた やく ねんまえ うみ
関内駅の辺りは、約400年前までは海でし
た。そこを江戸の 商人、吉田勘兵衛が中心に
なって埋め立てました。それで、吉田新田と呼
ばれています。

やく ねんまえ よこはま
約400年前の横浜



吉田新田開墾前図 (吉田興産蔵)



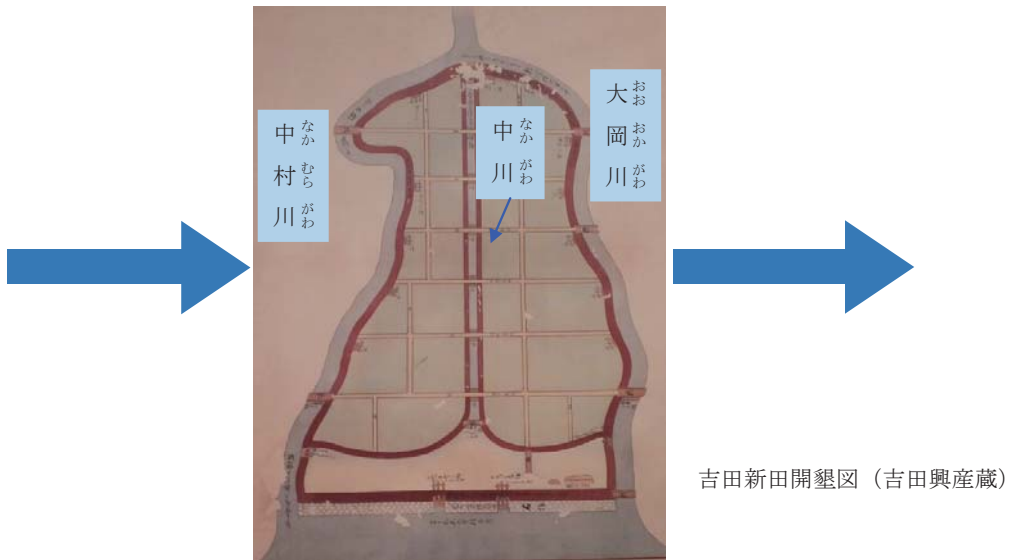
ち ず やく ねんまえ よこはま ち ず いりうみ か ふね
地図は、約400年前の横浜の地図です。「入海」と書いてあります。船も

たくさん描いてあります。人々は魚をとりながら生活していました。入海の入

ぐち はんとう しゅうかんじま よこ なが はま ひろ
口に半島があります。「宗開島」です。横に長く浜が広がっていたのでしょう。

よこはま な はんとう かたち
横浜という名は、この半島の形からつけられたようです。

やく ねんまえ よこはま
約350年前の横浜



うえ え かんせい しんでん え ず いりうみ た みち
上の絵は、完成した新田の絵図です。入海だったところには、田んぼと道が
つくられました。おおおかがわ なかむらがわ なかがわ ぼん かわ がねがた ちょう
点に取水口を作りました。そして、中川から水をひきました。
うみがわ ぬま
海側には、沼がありました。

ねんまえ よこはま
120年前の横浜

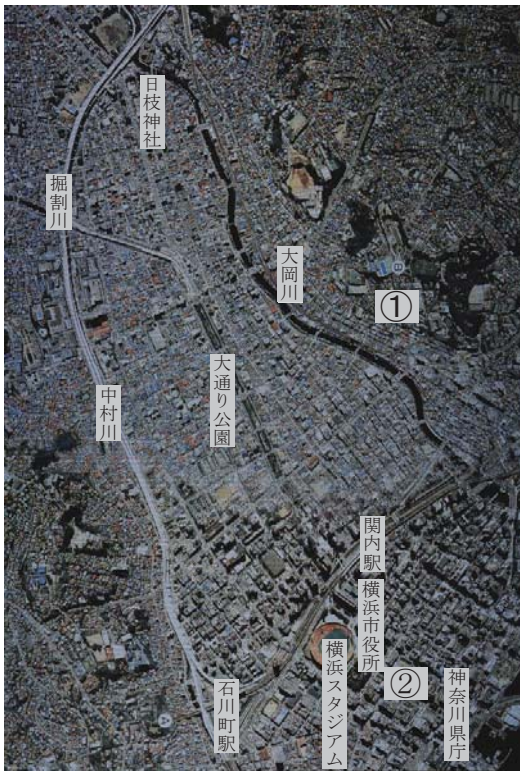


うえ え よこはま かいこう あと え ぬま う た たて
上の絵は、横浜が開港した後の絵です。沼が埋め立てられました。そして建
もの た
物がたくさん建てられました。また、根岸湾まで運河(堀割川)もできました。

うみがわ だいけい ぶ ぶん かんない よ よこはま ちゅうしん
海側の台形の部分は関内と呼ばれました。そこは、横浜の中心となりまし
た。

かいこう あと よこはま す ひと ふ みなと がいこく ふね
開港した後、横浜に住む人はどんどん増えていきました。港 には外国の船が
たくさん来^きました。

げんざい よこはま
現在の横浜



吉田新田風景変化模型（横浜市歴史博物館蔵）

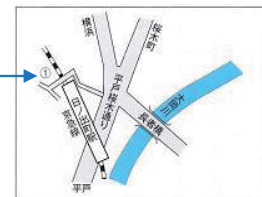
げんざい よしだしんでん かんけい
現在も、吉田新田と関係のあるもの
のこ
が残っています。

ど とり ば よしだしんでん う た
①の土とり場は、吉田新田を埋め立
てるために土をとったところです。

よこはます た じ あ む うみ む
横浜スタジアム（②）から海に向か
う道路を見ると、少し高くなっていま
す。これが しょうかんじま あと
宗閑島の跡です。



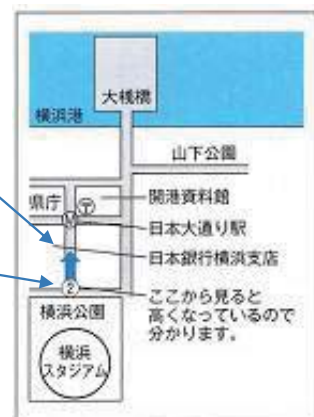
①土とり場跡



にほんぎんこうよこはましてん いしづ
日本銀行横浜支店の石積み



②からみた風景



(撮影:地球っ子教室)

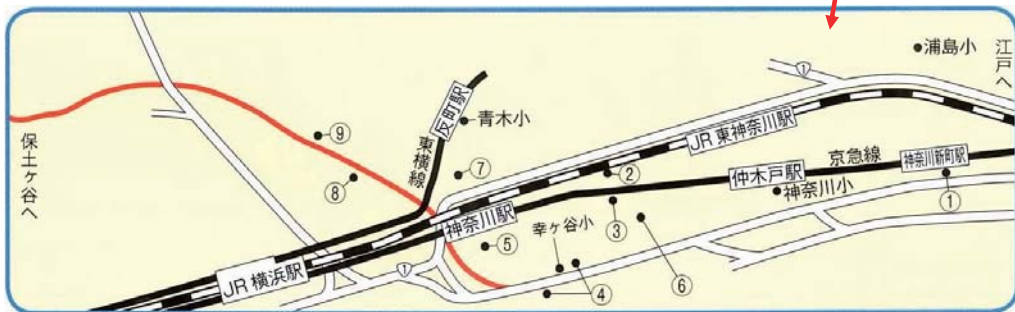
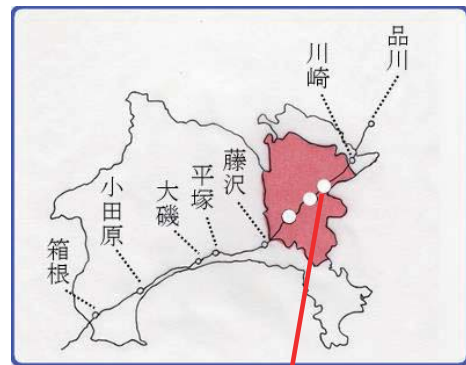
とうかいどう 東海道 さんしゆく 三宿 まっぽ マップ

とうかいどう え ど いま とうきょう きょう いま
東海道は、「江戸（今の東京）」から「京（今の
きょう と みち とうかいどう しゆく ば まち
京都）」までの道です。東海道には、53の宿場町
がありました。そのため「東海道五十三次」といわ
れます。よこはま みつ しゆく ば まち いま
横浜には、三つの宿場町がありました。今
でもたくさんのしせき
史跡がのこっています。

かいこう 開港のおもかげがいまものこる かながわしゆく 神奈川宿

えど 江戸から

やく 約28km



かいこう ご かながわしゆく てら がいこく りょうじかん りょうじかん
開港後、神奈川宿にあるお寺が外国の領事館などになりました。領事館に

なることをことわ 断るお寺もありました。断るために、やね 屋根をはがし、しゅうりちゅう 修理中だ
と言いました。

① オランダ領事館あと



うらしま
でら
寺とも、
よばれて
います。

② 慶雲寺 (フランス領事館あと)



③ 成仏寺 (アメリカ宣教師の宿舎)



④ 本陣あと (このあたりに
ありました)



⑤ 洲崎大神



みなものよりとも
源 頼朝が
た
建てたと言わ
れています。

⑥ 高札場 (復元)



かいこう ご がいくじん
開港後、外国人が
つぎつぎとおそわ
れました。幕府は
かんもん つく
関門を作って、と
りしまりました。

⑦ 本覚寺 (アメリカ領事館あと)



⑧ 台町の茶屋



「東海道五拾三次之内
神奈川」

⑨ 関門あと



「東海道五拾三次之内 神奈川」 横浜中央図書館蔵
他 撮影:地球っ子教室

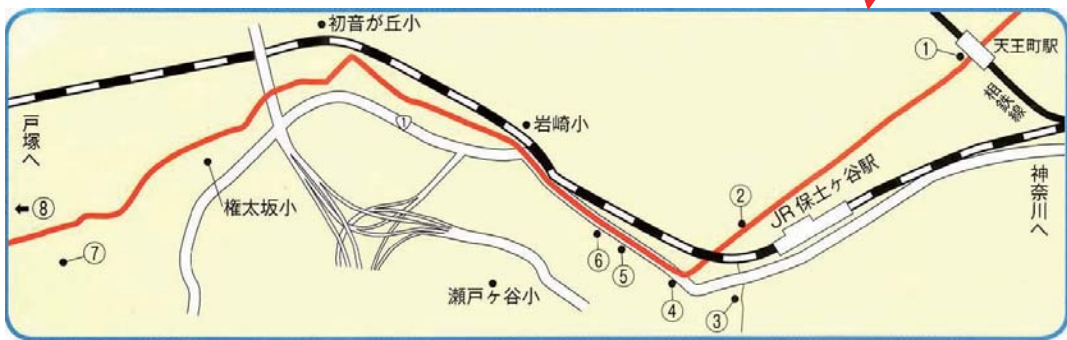
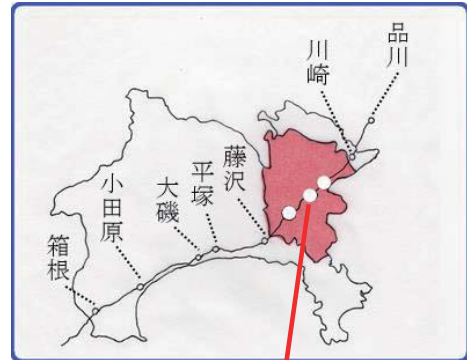
●江戸時代にも旅行ガイドブックがあった！

え ど じ だ い り ょ う が い ど ぶ っ く
江戸時代に、「旅行用心集」という本がありました。旅の荷物、籠に
よわ ない ほう ほう つか と ほう ほう か
よわくない方法、疲れを取る方法などが書かれていました。

江戸時代にタイムスリップ?!

保土ヶ谷宿

えど
江戸から
やく
約32km



保土ヶ谷宿には、昔の建物や土蔵などがのこっています。それらは、江戸時

代に建てられました。

① 帷子橋 (新町橋)



「東海道五拾三次之内 保土ヶ谷」

② 高札場あと



③ 政子の井戸



④ 本陣あと



⑤ 脇本陣あと



⑥ はたご本金子屋あと ⑦ なげこみ塚の碑



みなものよりとも つま まさこ
源 頼朝の妻、政子がこの
い ど みず つか
井戸の水を使いました。この
みず
水で、けしょうをしたと言わ
れています。

⑧ 品濃一里塚



「東海道五拾三次之内 保土ヶ谷」 横浜市歴史博物館蔵
他 撮影:地球っ子教室

弥次さん・喜多さんも泊まったよ 戸塚宿

えど
江戸から
やく
約40km



「東海道 中 膝栗毛」の主人公は弥次さんと喜多さんです。この二人は、江戸を出発して、最初に戸塚宿に泊まりました。戸塚宿は、三宿の中で、宿屋が一番多かったそうです。

①江戸方見付あと



②吉田大橋



「東海道五拾三次之内 戸塚」

③沢辺本陣あと



④富塚八幡宮



行けば、「戸塚」という地名の由来がわかります。

「東海道五拾三次之内 戸塚」 横浜市中央図書館蔵
他 撮影:地球っ子教室

よう ご せつめい
用語説明

● ^{うみ}海と^{おか}丘をかけめぐった ^{じょうもんじん}縄文人

丘	おか
^{やま} 山よりは ^{ひく} 低く、 ^{たか} なだらかに高くなっているところ。	
縄文人	じょうもんじん
^{じょうもん} 縄文 ^{じだい} 時代に ^い 生きていた ^{ひとびと} 人々。	
ナウマンゾウ	なうまんぞう
^{やく} 約 ^{まんねんまえ} 30万年前から ^{やく} 約 ^{まん} 1万 ^{せんねんまえ} 5千年前まで ^{にほん} 日本や ^{ひがしあじあ} 東アジアに ^い 生きていた ^{ぞう} 象の ^{なか} 仲間。	
日本列島	にほんれっとう
^{ほっかいどう} 北海道・ ^{ほんしゅう} 本州・ ^{しこく} 四国・ ^{きゅうしゅう} 九州と ^{ふきん} その ^{しまじま} 付近の島々。	
温暖化	おんだんか
^{ちきゅう} 地球の ^{きおん} 気温が ^{たか} だんだん高くなること。	
氷河	ひょうが
^{ちきゅう} 地球の ^{きおん} 気温が ^{ひく} とても低かったとき、 ^つ 積もった ^{ゆき} 雪が ^お 押しつぶされて ^{かた} 固まった ^{こおり} 氷。それが ^{ひく} 低い ^{とち} 土地に ^む 向かって ^{うご} 動いているもの。	
縄文時代	じょうもんじだい
^{じょうもん} 縄文 ^{どき} 土器が ^{ひろ} つくられて、 ^{つか} 広く使われていた ^{じだい} 時代。	

遺跡	いせき
か こ ひとびと のこ じゅうきょ かいづか こふん あと 過去の人々が残した住居・貝塚・古墳などの跡があるところ。	
タイムカプセル	たいむかぷせる
しょうらい つた もの ぶんしょ う ようき 将来に伝えるために、物や文書を埋めておく容器。	
台地	だいち
たい とち いちぶぶん たか たい ちけい 平らな土地の一部分が高くなって平らにひろがった地形。	
貝塚	かいづか
ひとびと た かい から たいりょう つ かき のこ 人々が食べた貝の殻などが大量に積み重なって残っているところ。	
埋葬	まいそう
し ひと たいせつ う 死んだ人を大切に埋めること。	
発見	はっけん
いま し あたら み 今まで知らなかったものを新しく見つけること。	
ムラ	むら
じょうもん じだい ひとびと あつ 縄文時代、人々が集まってすむようになったところ。	
カヤ	かや
や ね つく つか くさ 屋根を作るために使った草。	
火をたく	ひをたく
ひ 火をもやすこと。	

炉	ろ
いえ なか ひ 家の中で火をたいてあたたまったり、 に や 煮たり焼いたりするところ。	
角	つの
どうぶつ う し し か 動物（ウシやシカなど）の あたま 頭から は 生えているかたいもの。	
丸木舟	まるきぶね
いっぽん き 一本の木をくりぬいて つく 作った ふね 船。	
狩り	かり
とり 鳥やけもののあとを お 追いかけてつかまえ、 しょくりょう 食料とすること。	
弓矢	ゆみや
ゆみ や とり 弓と矢。鳥やけものをつかまえるための どうぐ 道具。	
発明	はつめい
これまでなかったものを あた 新しく かんが 考 つく えたり作ったりすること。	
主食	しゅしょく
まいにち しょくじ ちゅうしん 毎日の食事で中 た 心となる食 もの べ物。	
保存	ほぞん
そのままの じょうたい 状態が か 変わらないようにしておくこと。	
土器	どき
つち つく 土で作った うつわ 器。	

模様	もよう
ここでは、 ^{ひょうめん} 表面につけた ^え 絵や ^{かたち} 形。	
石器	せっき
^{いし} 石で ^{つく} 作った ^{どうぐ} 道具。	
カス	かす
これ ^い 以上 ^{じょうりよう} 利用できない ^{のこ} 残った ^{ぶぶん} 部分。	
とむらう	
^{ひと} 人が ^し 死んだとき、 ^{かな} 悲しんで ^{わか} 別れること。	
まじない	
ふしぎな ^{ちから} 力で、 ^よ 良いことや ^{わる} 悪いことを ^{おこ} 起こすようにすること。	
ペンダント	ペンダント
ひもをつけて ^{くび} 首にかけるかざり。	
魔よけ	まよけ
^{わる} 悪いことが ^{ちか} 近 ^よ 寄らないように、 ^み 身を守 ^{まも} るためのもの。	
ピーク	ピーク
^{いちばんたか} 一番高くなったところ。	
海水面	かいすいめん
^{うみ} 海の ^{ひょうめん} 表面。	

関東地方	かんとうちほう
ほんしゅう いちぶ いばら きけん とち ぎ けん ぐん ま けん さいたまけん どうきょう と ち ば けん か な 本 州 の一部、茨 城 県 ・ 枋 木 県 ・ 群 馬 県 ・ 埼 玉 県 ・ 東 京 都 ・ 千 葉 県 ・ 神 奈	
がわけん なな ち いき 川 県 の 7 つ の 地 域。	
入江	いりえ
うみ りく はい こ 海 が 陸 に 入 り 込 ん だ と ころ。	
へり	
そとがわ い ち ば ん 外 側 の と ころ。	

● こめ てつ て や よいじん
 米 と 鉄 を 手 に し た 弥 生 人

弥生人	やよいじん
や よい じ だい い ひとびと 弥 生 時 代 に 生 き て い た 人 々。	
気候	きこう
いってい き かんちゅう き おん あめ ふ かた じょうたい 一 定 の 期 間 中 の 気 温 や 雨 の 降 り 方 な ど の 状 態。	
弥生時代	やよいじだい
じょうもん じ だい あと や よい と き つか じ だい 縄 文 時 代 の 後 、 弥 生 土 器 を 使 っ て い た 時 代。	
水田	すいでん
みず い いね つく と ち た 水 を 入 れ て 稲 を 作 る よう に し た 土 地 (田 ん ぼ)。	
武器	ぶき
たたか どう ぐ 戦 う た め の 道 具。	

溝	みぞ
ここでは、土を細長く掘ったところ。	
外敵	がいてき
そと せ てき 外から攻めてくる敵。	
高床式倉庫	たかゆかしきそうこ
じ めん はしら た ゆか たか そうこ 地面に柱を立て、床を高くした倉庫。	
稲作	いなさく
いね そだ こめ つく 稲を育てて米を作ること。	
中国	ちゅうごく
に ほん にしがわ たいりく くに 日本の西側の大陸にある国。	
朝鮮半島	ちょうせんはんとう
に ほん にしがわ たいりく はんとう 日本の西側の大陸にある半島。	
九州	きゅうしゅう
に ほんれっとう なんせいぶ おお しま まわ しまじま 日本列島の南西部にある大きな島とその周りの島々。	
壺	つぼ
くち ほそ どう ぶ ぶん ようき 口のところが細くて、胴の部分がふくらんだ容器。	
種もみ	たねもみ
つぎ とし たね ほ ぞん こめ 次の年に種とするために保存する米。	

倉	くら
こめ 米などをいれておくところ、たてもの建物。	
穀物	こくもつ
こめ 米、むぎ 麦、あわ アワ、とうもろこし トウモロコシなどの、た 食べるためにつくるしょくぶつ 植物。	
かめ	
えきたい 液体をいれるい ふか ようき 深い容器。	
はち	
さら 皿のようなかたち で、さら ふか ようき 皿よりは深い容器。	
農具	のうぐ
のうぎょう 農業にしよう 使用するきぐ 器具。	
やじり	
ぼう 棒のさき につけて、つ さき 刺すためのどうぐ 道具。	
カマ	かま
しょくぶつ 植物をき と 切るのうぐ 農具。	
クワ	くわ
しょくぶつ 植物をう 植えるためにつち ほ お 土を掘り起こすのうぐ 農具。	
貴重品	きちょうひん
たいせつ 大切なもの、なかなかて はい 手に入らないもの。	

棺	ひつぎ
き し ひと い はこ 木でつくった、死んだ人を入れる箱。	
出土	しゅつど
つち なか はっけん 土の中から発見されること。	
史跡	しせき
れき しじょう じゅうよう たてもの ばしょ 歴史上で重要なできごとがあったり、建物があつた場所。	

かがみ かぶと う こふんじだいじん
● 鏡や兜をもらい受けた古墳時代人

兜	かぶと
むかし たたか あたま まも 昔、戦いのときに頭を守るためにかぶったもの。	
古墳	こふん
ち ほう おう まいそう つち も はか 地方の王などを埋葬したところ。土を盛ってつくった墓。	
古墳時代	こふんじだい
や よい じだい あと こ ふん おお じ だい 弥生時代の後、古墳が多くつくられた時代。	
「魏志倭人伝」	ぎしわじん でん
に ほん こ だい か もっと ふる ほん 日本の古代のことが書いてある最も古いの本。	
鎧	よろい
むかし たたか からだ まも き 昔、戦いのとき、身体を守るために着たもの。	

玉	ぎよく
うつく 美しくて きちょう いし 重 なたま 石。まがたま、くだたまなど。	
ヤマト	やまと
にほん 日本 ふうる 古い ことくめい 国名 ひと の一つ。	
カシラ	かしら
ひと 一つの おむ 群れ の なか 中で いちばん 一番 えらい ひと 人。	
有力者	ゆうりよくしゃ
ひと 人やものごとを うご 動かす ちから 力 の ある ひと 人。	
大王	おおきみ
ここでは、ちゅうおう 中央 おう の王。	

● なら 奈良 みやこ 横浜 よこはま の都 とをつなぐもの

都	みやこ
ここでは、てんのう 天皇 す が住んでいる ちいき 地域。	
すずり	
みず 水 を い 入れて すみ 墨 を どうぐ する 道具。	
墨	すみ
しゅうじ 習字 の とき に つか 使う ぐろ 黒 い かたまり。すずりですって つく 作った ぐろ 黒 い えき 液。	

税	ぜい
ひと くに おさ 人びとが国に納めなければいけないもの。	
役所	やくしょ
ぜい あつ しごと ところ 税を集めるなどの仕事をする所。	
国分寺	こくぶんじ
くに あんぜん ゆた かくち た てら 国が、安全で豊かになることをいのって、各地に建てた寺。	
文書	ぶんしょ
も じ か 文字で書いたもの。	
政治	せいじ
くに おさ 国を治めること。	
駅	えき
ここでは、たび ひと うま ようい ここでは、旅をする人のために、馬を用意していたところ。	
万葉集	まんようしゅう
げんざいのこ にほん いちばんふる うた ほん 現在残っている、日本で一番古い歌の本。	
防人	さきもり
むかし きゅうしゅう ほくぶ まも へいし 昔、九州の北部を守った兵士。	
武蔵国	むさしのくに
いま どうきょうと さいたまけん か な がわけん いちぶ 今の東京都・埼玉県・神奈川県の一部。	

仏教	ぶっきょう
インドの釈迦 しゃか の教え おし 。	
瓦	かわら
ねんど ねん ど を か ためて、焼 や いたもの。屋根 やね に つか う。	

● 陸りくの道みちと海うみの道みち

中世	ちゅうせい
にほん にほん では、鎌倉時代 かまくら じ だい と室町時代 むろまち じ だい 。	
武士	ぶし
むかし むかし 、たたか たたか う技術 ぎ じゅつ を習 なら って、いくさ せんそう （戦争）で戦 たたか った人 ひと 。さむらい。	
鎌倉	かまくら
か ながわけん か ながわけん のなんとうぶ なんとう ぶ にある市 し 。	
幕府	ばくふ
ぶ し ぶ し がせいじ せい じ をしていた時代 じ だい のやくしょ やくしょ 。	
産物	さんぶつ
そのとち とち でとれるものやつく つく もの もの 。	
にぎわう	
ひと ひと がおお おお で で 、もの もの をう う ったりか か ったりして、にぎやかなようす。	

石碑	せきひ
きねん 記念のことばを か 書いて、 た 建てた いし 石。	
物資	ぶっし
ひとびと 人々の生活に必要なもの。	
港	みなと
ふね 船が出入りしたり、安全にとまったりできるようにつかった ところ 所。	
外海	そとうみ
りくち 陸地から離れた、 はな 広々とした うみ 海。	
干潟	ひがた
かいめん 海面が低くなったときにあらわれる すな 砂地。	
埋め立てる	うめたてる
かわ 川・ みずうみ 湖・ うみ 海などを埋めて、 う 陸地にすること。	
門前	もんぜん
もん 門の前。昔は、寺の まへ 前 てら の まへ ことをいった。	
僧	そう
ぼう お坊さん。仏教を学んだり、人々に伝える ひと 人。	
商人	しょうにん
ひとびと 人々に物を売る仕事 しごと をしている ひと 人。	

職人	しょくにん
てさき ぎじゅつ もの しごと ひと 手先の技術で物をつくる仕事をしている人。	
産業	さんぎょう
せいかつ ひつよう しなもの つく だ さーびす しごと 生活に必要な品物を作り出したり、サービスをおこなういろいろな仕事。	
金沢北条氏	かなざわほうじょうし
かまくらばくふ ゆうりよくしゃ ほうじょう いえ ひとびと 鎌倉幕府の有力者だった「北条」の家の人々。	
貿易	ぼうえき
ほか くに しなもの う か 他の国と、品物を売り買いすること。	
輸出	ゆしゅつ
ほか くに しなもの さんぶつ ぎじゅつ う だ 他の国に、品物・産物・技術などを売り出すこと。	
仏典	ぶってん
ぶっきょう おし か 仏教の教えを書いたもの。	
書物	しょもつ
ほん 本。	
陶磁器	とうじき
ねんど や 粘土などを焼いてつくったもの。	
輸入	ゆにゅう
ほか くに しなもの さんぶつ か い ぎじゅつ い 他の国から、品物・産物を買ったり、技術を取り入れたりすること。	

● ^{よこはま}横浜は ^{むかし}昔、 ^{うみ}海だった!? ^{よし だ しんでん}吉田新田

新田	しんでん
^{あた} 新 ^{しく} つく ^{った} 田。	
入海	いりうみ
^{りくち} 陸地に、 ^{うみ} 海が ^{はい} 入り ^{こんで} いる ^{ところ} 所。	
半島	はんとう
^{うみ} 海につ ^で き ^{ほそなが} 出ている ^{りくち} 細長い陸地。	
田んぼ	たんぼ
^{みず} 水を入れて ^い 稲 ^{いね} をつ ^く く ^{とち} ように ^{すいでん} した土地（水田）。	
つり鐘	つりがね
^{てら} 寺などに ^お つ ^{おお} る ^{かね} してある大きな鐘。	
取水口	しゅすいこう
^{かわ} 川などから ^{みず} 水 ^と を ^い 取り ^い れるところ。	
沼	ぬま
^{みずうみ} 湖 ^{あさ} より ^お 浅 ^{おお} くて、 ^お ど ^ろ ろ ^お が多いところ。	
開港	かいこう
^{みなと} 港 ^{がいこく} を ^{ぼうえき} 外国と貿易 ^が でき ^る ように ^し する ^こ と。	
運河	うんが
^{ふね} 船 ^と を ^お 通 ^{みず} したり ^す 水 ^を ひ ^い たり ^す る ^{ため} に、 ^{つく} った ^{すいろ} 水路。	

台形	だいけい
む 向かい 合う 一組の 辺が、 へいこう 平行である 四 へんけい 辺形。	
石積み	いしづみ
いし かさ 石を重ねてかべなどをつくったもの。	

● とうかいどうさんしゅく ま っ ぶ
東海道三宿マップ

東海道	とうかいどう
え 江 戸 から きょう 都 京 まで つづ づ 海 ぞいの じゅうよう 重 要 な 道。 かいどう 街 道 の ひ と つ。	
宿場町	しゅくばまち
むかし かいどう えき ちゅうしん はったつ まち 昔、街道の駅を中心にして発達した町。	
おもかげ	
ようす。	
領事館	りょうじかん
がいこく じぶん くに しごと やくしょ 外国で自分の国のための仕事をする役所。	
宣教師	せんきょうし
ここでは、きりす と きょう ひろ にほん き ひと 基督教を広めるために日本へ来た人。	
本陣	ほんじん
え 江 戸 じだい ばくふ 幕府の えらい 人 などが と 泊 ま った かいどう やど 街道の宿。	

高札場	こうさつば
江戸時代、お知らせなどを書いた板を、よく見えるように高くあげた場所。	
茶屋	ちゃや
旅の人にお茶などを出して休ませる店。	
関門	かんもん
そこを通るのに許可が必要なところ。	
とりしまる	
見守って、悪いことが起きないようにすること。	
籠	かご
昔、二人以上の人がかついで運んだ乗り物。	
よう	
乗り物などにゆられて、気持ちが悪くなること。	
タイムスリップ	たいむすりっぷ
今の時間や場所から、昔や未来に急に移動すること。	
土蔵	どぞう
土などでまわりを厚くぬってかためた蔵。	
井戸	いど
穴をほって、地下水を汲むところ。	

脇本陣	わきほんじん
ほんじん よ び 本陣の予備として使われた宿。	
はたご	
たび ひと と やど 旅の人を泊める宿。	
なげこみ塚	なげこみづか
たび とちゅう し ひと うま な ばしよ 旅の途中で死んだ人や馬などを投げこんだ場所。	
一里塚	いちりづか
え ど じだい かいどう いちり やく 江戸時代、街道に一里（約4 km）ごとに作った目じるしとなるもの。	
「東海道中膝栗毛」	とうかいどうちゅうひざくりげ
え ど じだい か どうかいどう たび か ほん 江戸時代に書かれた、東海道の旅を書いた本。	
宿屋	やどや
たび ひと と やど 旅の人を泊める宿。	
見付	みつけ
しろ そとがわ ひと で い き み 城の外側にあって、人の出入りを気をつけて見たところ。	
由来	ゆらい
もの お り ゆう 物ごとが起こった理由。	

あとがき

この冊子は 文化庁：平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムの委託を受けて、**横浜市教育委員会作成「わたしたちの横浜」**を外国につながる小学生や中学生が理解できるように、わかりやすく書き換えました。作成に当たり、横浜市教育委員会、横浜市歴史博物館、公益財団法人横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター、同横浜市三殿台考古館、神奈川県立生命の星・地球博物館、株式会社日本窯業史研究所、吉田興産株式会社、横浜市中央図書館、慶應義塾広報室の多大なご協力をいただきました。合わせて感謝申し上げます。

コーディネーター：辻 雅代

書き換え担当：地球っ子教室（小河千咲子・押野成美・小林とも子・辻雅代・吉田涼子）

【連絡先】

認定特定非営利活動法人 地球学校

地球っ子教室 担当理事 辻 雅代 E-mail：chikyu-co@chikyu-gakko.org

◆事務所 〒247-0007 横浜市栄区小菅ケ谷 1 - 2 - 1 地球市民かながわプラザ 1 階（あーすぷらざ）

◆認定 N P O 法人 地球学校 ホームページ <http://www.chikyu-gakko.org/>

◆認定 N P O 法人 地球学校 ブログ <http://blog.canpan.info/chikyu-gakko/>



【出典】

『わたしたちの横浜 横浜市立小学校用副読本 2012 年度版』

社会科・理科・『横浜の時間』副読本

横浜市教育委員会（平成 25 年 6 月 2 日第 4 版 2 刷発行）より書き換え

